平成３１／令和元年度　学校全体の自己評価

栃木県立足利女子高等学校

1　本年度の重点目標

（1）生徒の主体性を育む指導の充実
（2）学力向上のための組織的・継続的取り組みの充実
（3）希望進路の実現を図る支援体制・協働体制の充実
（4）知性と品格を持った人間性豊かな生徒の育成
（5）統合新校設立のための準備事業の推進

2　重点目標の自己評価

重　点　目　標	評　価　の　基　準	自己評価	学 校 関 係 者 評 価
（1）生徒の主体性を育む指導の充実	・各部、学年の（1）に該当する項目の合計点　A：23点以上、B：22点以下～0点、C：0点未満	B	各部・学年のそれぞれで主体性を育む指導の工夫がされている。
（2）学力向上のための組織的・継続的取り組みの充実	・各部、学年の（2）に該当する項目の合計点　A：10点以上、B：9点以下～0点、C：0点未満	B	概ね適切な取り組みが行われている。
（3）希望進路の実現を図る支援体制・協働体制の充実	・各部、学年の（3）に該当する項目の合計点　A：11点以上、B：10点以下～0点、C：0点未満	B	新制度大学入試に対応するための支援体制充実への取り組みがなされている。
（4）知性と品格を持った人間性豊かな生徒の育成	・各部、学年の（4）に該当する項目の合計点　A：18点以上、B：17点以下～0点、C：0点未満	B	特別活動等を通して生徒の成長を促し、人間性豊かな生徒の育成が図られている。
（5）統合新校設立のための準備事業の推進	・各部、学年の（5）に該当する項目の合計点　A：5点以上、B：4点以下～0点、C：0点未満	B	統合に向けて、各部とも課題を整理し、検討が進んでいる。

評価の基準：〈①各部、学年の重点目標の評価を【A：1点、B：0点、C:－1点】とし、該当する項目(1)～(5)に分類したときの合計点〉
〈②各部・学年の重点目標で(1)～(5)それぞれに該当数する項目数：(1)=38 (2)=16　(3)=17 (4)=30 (5)=7)〉としたとき、①÷②が　【A：60%以上、B：60%未満～0%、C：0%未満】

自己評価：A～Cの３段階　【　A：十分に達成できた　B：ほぼ達成できた　C：達成できなかった　】

3　各分野での自己評価

分　　野	評　価　内　容	評　価　の　基　準	自己評価	学 校 関 係 者 評 価
（1）組織運営	・校長と教頭が学校運営でリーダシップを発揮し、各主任を中心として目標の達成に向かって努力したか。	・目標の達成に向かって、組織的に取り組み、効果を上げたか。	B	今年度の重点目標の達成のために、各部・学年が積極的に取り組み、効果を上げている。
（2）職員の資質向上の取組	・さまざまな校内研修を実施し、また授業研究や授業評価をとおして、職員の意識変容や授業改善に向けての取組ができたか。	・校内研修等をとおして職員の意識の変容や取組が成されたか。授業改善に向けた結果が出てきているか。	B	授業見学や授業評価を行い、改善に役立てている。ｱﾝｹｰﾄをもとに更なる授業力向上を期待する。
（3）生徒の学力向上の取組	・学習指導部・教科・学年の連携により、学力向上に向けた課題の把握とその解決を図る組織的な取組ができたか。	・取り組みをとおして、生徒の学力の向上や自学自習意識の高揚が図られたか。	B	学習指導部や教科・学年の取り組みを通して、生徒間には自学自習の意識の高揚が概ね図られている。
（4）職場環境づくり（不祥事防止）	・日頃の校内研修や人間関係づくりにより、不祥事防止に向けた危機管理意識の高揚や職場づくりができたか。	・危機管理自校ﾏﾆｭｱﾙの実践等をとおして不祥事防止に向けた職場環境づくりが図られたか。	A	ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽﾁｪｯｸや不祥事防止に関する校内研修を実施し、教職員の意識の高揚が図られている。
（5）安心安全な学校環境づくり	・日頃の校内研修等で、生徒の安全確保といじめ防止の意識を高める。全ての教育活動の場面生徒の安全を確保し、いじめを許さないという意識を徹底する。	・学校評価アンケートで、生徒、保護者、職員から生徒の安全確保といじめ防止への取組が適切だと評価されたか。	A	教育相談ｱﾝｹｰﾄの実施と迅速で適切な組織的対応、防災避難訓練の改善、交通安全関係で、生徒の意識の変容が見られる。

自己評価：A～Cの３段階　【　A：十分に達成できた　B：ほぼ達成できた　C：達成できなかった　】